

前期基本計画(原案)に係る各委員からのご意見について

資料 2 - 1

番号	委員名	分類	ページ	意見	回答
1	東 洋平委員	第2章	7	法人市民税課税法人数と法人市民税現年課税額を目標値にされたのはわかりやすいと思いました。一方で、両指標はあくまで法人の経済活動を測るものであり、一般市民の所得水準を示すものではありません。館山の都市部との立地を考えると、都市部に本社がある会社に勤めながら館山で生活する人も今後増加してほしいと思います。この2つの指標に加えて、市民の「平均所得額」などを加えることは難しいでしょうか。また外貨を稼ぐ点では、「観光消費額」は大きな指標になりませんかでしょうか。	平均所得額につきましては、市民の総所得を算出するのが困難であるため、指標とすることは見送らせていただきます。 いただいたご意見を踏まえて、「観光消費額」をプロジェクト1の数値目標として追加します。
2	児玉 秀一委員	第2章	7・8	テーマが「たてやまの経済発展を目指す」の部門に、観光産業についての直線的な内容が入っていないため、本来また近い将来めざすべき「観光地経営」の姿の目的、目標と整合性がないことになります。観光は、当地における外貨なので、直接的な経済発展目標分野だと思いますが。(今、掲載されている働き方、担い手支援、・・・成長循環も不正解ではないと思いますが、御当地消費は人口減少を考えると「経済発展」になりにくいことになります。いわゆる地産地消は民俗文化・ブランディングの一種で、経済の話ではない、のと同じような考え方です。地域経営の観点で直線的な取り組み項目はあっているのでしょうか？	※意見番号4と関連 いただいたご意見を踏まえて、プロジェクト2の取組内容であった「観光分野のDX推進」を、プロジェクト1の取組内容「② 地域産業の担い手を支援する」に変更します。
3	児玉 秀一委員	第2章	9	「たてやまに愛着を持つ人を増やす」のテーマで、交流人口、関係人口増加などの項目で、観光関係の目標について。それ自体は、「人数」のことなので、テーマとしてはあっているが、「観光地経営」の観点からすると「観光消費額向上」を筆頭に「地域経済」に直接関与する分野として観光庁の施策としては指導されている。〇〇人口を増やした結果、「地域活性」につながるのか、「経済効果」につながるのか、を観光分野は明確に「経済」につながる施策に、と問われているので、この表示体の論理は合っているが、項目の置き方、分類の仕方に違和感があります。	いただいたご意見を踏まえて、「観光消費額」をプロジェクト2の数値目標として追加します。

番号	委員名	分類	ページ	意見	回答
4	児玉 秀一委員	第2章	10	「観光分野のDX推進」も、「観光地経営」の経済施策です。活性化施策ではありません。稼ぐために導入するのが「観光DX」です。当然、来訪者を増やすための方策なので、取り組み内容の表記としては間違っていないかもしれませんが、違和感があります。	※意見番号2に関連 いただいたご意見を踏まえて、プロジェクト2の取組内容であった「観光分野のDX推進」を、プロジェクト1の取組内容「② 地域産業の担い手を支援する」に変更します。
5	中島桂子委員	第3章	19	DMO (Destination Management/ Marketing Organization) の注釈を挿入してはどうでしょうか？ (一般の方に認知度が高い用語でしょうか？)	認知度は高くないと考えられるため、いただいたご意見を踏まえて注釈を追加します。あわせてDMOの役割について、用語集への掲載を検討します。
6	児玉 秀一委員	第3章	20	観光の振興の項目で、主な個別計画…の箇所で、「策定予定」を含むだと、DMO設置が前提になっているので、「観光地経営戦略プラン」という単語があったほうがいいです。	いただいたご意見を踏まえて、「(仮称)観光地経営戦略プラン」を追加します。
7	児玉 秀一委員	第3章	67・68	シティプロモーションに関する記述があります。取り組む表現としては合致していると思いますが、シティセールスと、セールスプロモーションが混同している印象があります。シティプロモーションは、行政側は「各自」(各課)でやることではなく、地域も「各所」でやるものではありません。掲載表現はこれでいいですが、推進する、と言い切るには、シティプロモーションの具体的推進方法や施策としての策定が必要で、このままだと「気持ち」の問題で終わる気がします。コンパクトシティにならざるを得ない状況をふまえた、館山市ならではの戦略を想定する、個別計画をたてるか、などが望ましいと考えます。	シティプロモーションの方向性及び取組内容を示した上での実効性を有する効果的な展開には大きな課題があるため、引き続き検討する必要があると考えられることから、現時点においてはご意見として承ります。
8	中島桂子委員	第5章	75	〈地区別ビジョンの趣旨〉、1行目； ”均衡ある発展”とは10地区全てで ”同じように” という意味でしょうか？	10地区のうち一部のみが突出して発展するのではなく、10地区全てが「発展度合いを同じくする」という趣旨で記載しましたが、「均一的な発展」という意味合いに受け取られる可能性があることから「均衡ある」を削除します。

番号	委員名	分類	ページ	意見	回答
9	東 洋平委員	第5章	75	地区別ビジョンについてもそれぞれの地区の特性をまとめていただきありがとうございます。本来は地域とともに作り、住民が主体的に取り組む計画となるべきですが、今回は時間的な制約もあって物理的に限界があったと思います。新総合計画の前期基本計画は地区別に計画づくりを行うという道筋を示すものという認識です。今後、住民と共に更新していく旨を加えていただくことはできますでしょうか。そもそも、地区ごとの計画更新について評価指標にいれるべきだと考えますがいかがでしょうか。	いただいたご意見を踏まえて、地区別ビジョンの更新時期の記載を修正します。 地区別ビジョンは後期基本計画策定時に見直しを行う予定でおりますため、指標としての設定は難しいと考えます。
10	中島桂子委員	第5章	75	〈各地域が直面する共通課題〉 8項目が挙げられていますが、いくつか具体的な解決策は明示されないのでしょうか？	地区別ビジョンは市内10地区の現状を、行政のみならず市民の皆様や事業者と共有し、課題の解決のために連携・協働していただくことを目的として策定することとしております。 P74「各地区が直面する共通課題」につきましては、「インフラの整備や老朽化」のように「主に行政が取り組むことで解決に至ると考えられるもの」も含まれていますが、上記の目的から解決策は提示しないこととしています。
11	中島桂子委員	第5章	75	地区別課題も列挙されていますが、特に臨海地域での問題は共通するものが多々あると思います ”海辺のまちづくり”と称されていますが、現在進行中のもの、今後検討されているものを公表いただければより理解しやすいと思います	「館山湾振興ビジョン」（平成21年策定。P19に掲載）を”海辺のまちづくり”の実現を目指すマスタープランとしていますが、ビジョン策定から年月が経過しており、地区ごとに求められる”海辺のまちづくり”も変化しているものと考えております。 地区別ビジョンは、その地区における”海辺のまちづくり”をどのように推進していくのかを皆様に考えていただくための”共通認識”を提示するものと考えています。
12	田上 重光委員	第5章	95	《住んで楽しい 来て楽しい 九重地区に向けて》の青枠中、「■JR九重駅について～」の文章につきまして、グリーンファーム館山の年間入込客数目標設定も踏まえ、「九重駅周辺エリアの活性化を推進するとともに、地域の拠点や交通結節点として機能させるべく、鉄道事業者等と連携し、利活用の方策を検討します」という内容ではいかがでしょうか。	いただいたご意見を踏まえて記載を修正いたします。